

## 「骨太方針」3つの宣言を検証する

日医総研 中村 十念

経済財政諮問会議のいわゆる「骨太方針」は、正式には、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2003」といわれる。この構成は、まず「3つの宣言」というのが提示され、それを達成するために「7つの改革」が行われるというシナリオになっている。「3つの宣言」が「骨太方針」の根っ子ということになる。この3つの宣言を検証してみる。

### 1. 経済活性化宣言

民間の活力を阻む規制・制度や政府の関与を取り除き、民間需要を創造する

この宣言は、規制緩和や撤廃をすれば、民間需要が創造されるという仮説に基づいていることは明らかである。ところが規制緩和して確実に創造されるのは、需要ではなく供給力である。この仮説が成立するためには供給が増えれば需要が増えるというつなぎの仮説の成立が必要である。つなぎの仮説は、少し考えれば誰にもわかるように、いつでも成立するとは限らない。

この仮説は、潜在的なニーズが存在する場合にのみ成立する。潜在的なニーズがなければ供給力の拡大により競争が激化し、価格の低下を招き、需要数量が変化しない場合には、金額表示の需要は減少する。需要が増えるのは、単価の減少を上回る需要の増加があった場合のみである。

わが国の国民が特に欲しがっている生活必需品は見当たらない。コンビニで薬を売るようになって、全体の薬の需要が増える訳ではない。ただ単に新しい供給者に需要が分散するだけである。医療や農業のような分野での規制緩和を凶っても需要の創造という面からは無意味である。しかし、この宣言が外資や外資まがいの国内資本に需要の分散を図るためになされているとすれば、なかなか意味深長である。

### 2. 国民の安心確保宣言

持続可能な社会保障制度を構築し、若者が将来を展望でき、高齢者も安心できる社会をつくる

この宣言を読んだ人は、誰しも社会保障が充実され、そのために必要な出費を国の責任のもとに行うということだと解する。ところがそうではない。事実は、国の財政が大変だから国民への給付を下げるということである。羊頭狗肉の「宣言」などすべきではない。

### 3. 将来世代に責任が持てる財政の確立宣言

財政の信認を確保し、成果を重視する

もし、この宣言を「りそな銀行」が行ったとしたらどうであろうか。竹中大臣は銀行の経営陣の倫理観のなさに激怒し、けじめを求めるであろう。

ところが、国の財政の中身は、この基本方針を見ると「りそな銀行」も驚くようなひどい状態らしいのである。そうであれば、財政の信認を確保するためには、国が積極的に国家財政の状況を開示し、不良債権等についても明らかにするということが前提となる。銀行の不良債権問題と同じはずである。ところが、そのような気配は全くない。それどころか、国民に対して詫びるという最低限のけじめすらつけそうもない。

国家の財政運営の失政のツケを、「潜在的国民負担率」という国民の理解し難い概念を持ち出して、言葉の定義すらハッキリさせないまま、国民に押し付けている。

「成果を重視する」というのは、成果の基準が示されていないので判然としないが、多分増税をするということなのだろう。誤魔化しは、もうたくさんである。

### 4. 今後の展望

不思議なことがいくつもある。例えば、竹中大臣である。

民間銀行の経営の失敗については、あれ程経営者責任を追求する人が、国家財政をこれ程滅茶苦茶にした財務官僚には何ひとつ責任を問わないことである。財務官僚は何の咎めもなく通常通り天下りを繰り返し、自らの権益拡大に余念がない。そのバランス感覚のなさを自分でおかしいと思わないところが不思議である。

もう一人、奥田委員である。

奥田さんは、世界企業の大経営者である。自企業の中で、「骨太方針」に類する概念設定がでたらめで用語選択も不用意な提案が出てきたら、どう対処されるのであろうか。まさか担当者の苦勞を買って、中途半端な処理をされることはあるまい。それが、一企業を超えた国家的なアジェンダであるにもかかわらず、上述したような中身である。一企業内ですら行われなことが、国家的なレベルでは横行する。そりにもかかわらず「骨太方針」を自画自賛するところがなんとも不思議である。

ともあれ、このような間違いと誤魔化しの宣言を根っ子とした「7つの改革」など、日本の再生につながるはずもない。

しかし、相手は国家権力であり、一度出はじめた流れはなかなか止まらない。流れの渦の中心は「潜在的国民負担率」である。現状では鶴のような存在である「潜在的国民負担率」の概念を定義し、率であるからには、その分母分子の算定式を明らかにして、この言葉に息を吹き込む必要がある。この作業を官僚任せにせず、自らの手で取り組むことが国会議員の責任であろう。きちんとしたデータと論理に基づく議論が、今もっとも求められる。